



江津湖遺跡群 (えびこいせきぐん)

現在、市民のオアシスとして親しまれている江津湖。加藤清正の築堤によるともいわれる江津塘（えびども）によって堰き止められてできた人口湖ですが、かつては広大な湧水地帯でした。

その豊かな水資源を求めて古くから人々が住みつき、周辺には、その証しである遺跡が存在しています。旧石器時代から江戸時代までの各時代のものがみられ、市内有数の遺跡密集地帯といえます。

中でも注目されるのは弥生時代初め頃の土器や石器が出土することです。水田耕作に適したこの地に初期の弥生人が注目し、市内でも最古の村が誕生したものと考えられます。

また、当時の大規模な墓地も見つかっています。墓からは、死者に食物をささげる際に用いられたものと思われる、通常的生活容器とは異なる特殊な小形の土器や装身用の玉（ビーズ）が出土しています。



弥生時代初期の墓に供えられた土器